

SHIN CLUB 109

(株)ユニホー辰カンパニー 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

田園調布 A邸 撮影:アック東京

煉瓦タイル

桜の花が美しい季節となりました。緑豊かな瀟洒な住宅街として知られる田園調布に、先月レンガタイルの美しい住宅が竣工しました。淡い色合いが町並みにしっかりと溶け込んでいます。

この煉瓦は、焼き物としての煉瓦本来の色、味わいを守り続ける、受注生産工房「㈱ TLC (ティー・エル・シー) アソシエイツ」の還元焼成珫器質タイルです。(http://www.tlca.jp)

「世間では、器の陶器にはこだわるのに、同じ焼き物であるタイルの品質にはどうしてこだわらないのでしょうか」と代表の木皿真司さん。建築素材の煉瓦に関する専門家がほとんどおらず、現場施工の複雑な経路や、ユーザーの立場に立った効果的なアドバイスが行われていない状況を改善したいと、「あつらえ品のプロ用還元煉瓦タイル陶 toh」を生産販売するとともに、ユーザーからの質問・疑問に答えています。

北海道生まれの木皿さんは、国内最大のタイル産地、美濃焼きタイルの総合商社に入り、設計事務所、ディベロッパーの設計指定営業開発に携わって、特注タイルの商材に精通しました。その後、美濃地方と素材を異にする、愛知県常滑地区の還元焼成煉瓦に感銘を受けて、その受注製造・企画・販売に従事するようになりました。

建築用煉瓦タイルの歴史は、明治期の煉瓦建築とは異なります。昭和 50 年以降に湿式外装煉瓦タイルが様々な発展を遂げました。当時は積極的に採用する設計事務所もありましたが、現在はそれらの設計者たちも高齢化し、特別な受注生産による煉瓦タイルは「保存文化」ともいえる貴重な建材となってきました。

「20 年ほど前から、建築業界全体がコストダウンの大量生産規格品に流れて、現在、国内の還元窯がどんどん希少価値になってきています。町で気に入った建物と出会い、『このタイルは素敵な色合いだから、自分の家にぜひ貼ってみたい』などと思っても、手に入れられる常備生産品は大手メーカーの工業製品だけで、〇〇メーカーの何番とわかるような規格された廉価品がほとんどです。オリジナリティを大事にするお客さんには、建築素材としての煉瓦タイルの奥深さをぜひ知っていただき、受注生産でご自分のイメージに合った煉瓦を手に入れてほしいのです」と木皿さん。

煉瓦タイルの材料は、粘土・陶石・長石で、吸水率により珫器質(1%以下)、珫器質(5%以下)、陶器質(6%~22%)に分けられます。珫器質になるほど素地は緻密で堅く、陶器質になるほど、多孔質で吸水が多くなります。焼成温度も珫器質ほど高く、陶器質ほど低くなります。また、焼くときの酸素の供給によって色も違えば硬さが変わります。酸素を抑えた焼成が還元焼成で、逆に酸素の供給を多めにするのが酸化焼成です。還元焼成は少しずつ温度を上げていくので、時間がかかりますが、無軸でも立体的で個性的で飽きの来ない、独特な発色を得ることができます。テクスチャも、はつり面からテッセラ(割り肌)、ワイヤーカットなど様々です。

「お客様の頭の中のイメージを整理して、現実のものに仕上げるのは長年の経験に裏付けられたものです。最後はまさに1枚の絵を描いたような気持ちでしたね」と木皿さんは半年に渡る仕事を振り返っていました。

田園調布 A邸



①



②



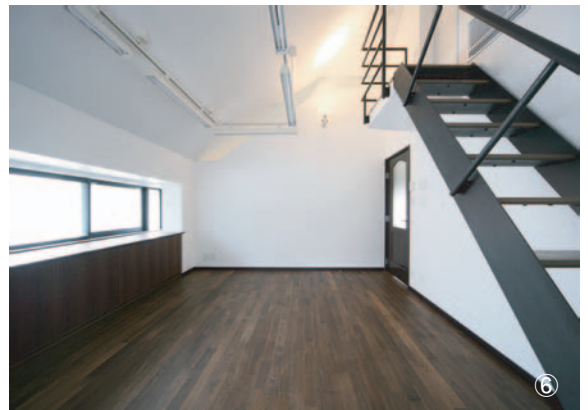
③



④



⑤



⑥

①B1階エントランス。煉瓦と無垢フローリングの床が丸いラインを描く②地下1階へのエントランス周り。外壁は外断熱に煉瓦タイルを施している③1階エントランス前のカウンター④1階道路側に面した個室⑤2階の階段踊り場。左右に個室、中央にトイレがある。ドアの前の天井の木の梁があらわしくなっており、さらにその上に小さなスペースのロフトがある⑥2階個室。右側の階段上に小さなロフト。正面壁に斜めに切られたガラスの欄間から階段の照明が差し込む

自然に街になじむ建築

建て主の希望は、「一見すると何と断言することはなく、以前からそこに建っていたかのように周囲になじんでいる建物」というものだった。田園調布という格式のある住宅街に、自己主張するでもなく、ごく自然に溶け込むには、コンクリート打ち放しの閉じた要塞のような建物ではなく、親しみのある素材で覆われ、年月を経るにつれ味わいがかもし出す煉瓦という素材が最適だということになった。

建て主の希望の色、形、形状を実現するために、今回、TLCアソシエイツの木皿真司氏と出会い、昔ながらの正統な煉瓦タイルの製造が危機に瀕していることを知った。生産地常滑で残っている窯は本当に少ない。また、施工する高い技術を持つ職人も減っている。本当に豊かなものづくりの現場がどんどん失われていることに、何かできるのではないかと感じた。

外構や庭は、造園デザイナーとして有名な桂川眞氏によるデザインである。通常よりも、丈の高い木々が運び込まれ、昔からそこにたたずんでいた趣を作り出している。前面道路からの小道には厚さ6cmの石畳が敷かれ、四季折々に花が咲く植栽、煉瓦造りの水場などが建物を囲んでいる。引き算の美学をモットーとする桂川氏のデザインが、建物の佇まいにこの地にふさわしい品格を与えている。

内部は、煉瓦の床と無垢のフローリングの色味を生かし、白い壁と木の組み合わせで落ち着いた雰囲気を出している。最上階の2階では、間仕切壁の上部に欄間を設け、隣合うスペースを視覚的に連続させた。

(鈴木基紀氏談)

構造：RC造 規模：地下1階、地上2階

用途：専用住宅

設計：鈴木基紀 / 空間設計社

外構：庭園デザイン：桂川眞 / 桂川デザイン事務所

煉瓦タイル制作アドバイザー：木皿真司 / TLCアソシエイツ

弊社施工担当：弘中

竣工：2009年3月

撮影：アック東京

TOPICS / INFORMATION

「3月社員研修会開催しました」 3月7日
 テーマ『鉄筋加工の流れ、自動加工機の見学、圧接実演』



今回は、(株)大熊鉄筋様にご協力いただき、工場見学を通して、鉄筋加工の実際を確認させていただきました。工場には、太物、細物の2種類のラインがあり、細物ラインにはD16まで加工できるフルオート加工機を備えています。

また、圧接の実演と強度試験、超音波探傷試験の実演や、鉄筋ジャバラユニット工法を、実物で説明いただきました。会議室では補足講義として、施工図を受け取ってからの流れの説明を受けるなど、若手社員には有意義な研修となりました。

加工能力は最大で1日120t～130t。都内でこのような設備を整えている鉄筋業者は下町地区では2、3工場だけだそうです。

「新入社員が入りました」

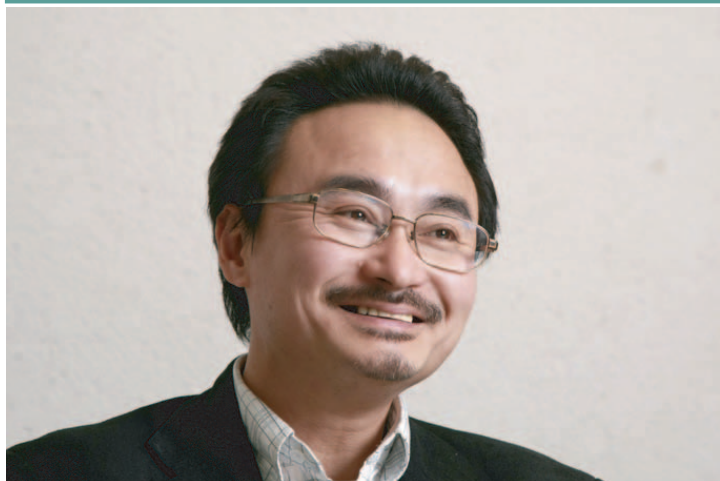


田所 幸治 21歳
 中央工学校建築工学科卒

よろしくお願ひします。

都市と農村を結ぶ人材を育成

NPO 法人「えがおつなげて」代表／曾根原 久司



撮影：アック東京

ここ数年、農村地域では、高齢化・過疎化が進み、遊休農地の増大、山林の荒廃、コミュニティの危機が迫っています。また都市部では、食の安全、安心に対する不安が高まっています。今月ご登場いただく曾根原久司氏は、農村と都市を結ぶ交流事業をいち早く手がけてきました。3月14日、主宰されるNPO法人がこの1年間行ってきた都市農村交流マネジメントコーディネーター育成事業、「えがおの学校」の修了式が行われると聞き、お話を伺ってまいりました。

—私は、2006年春に曾根原さんの企画した第1回関東ツーリズム大学のツアーに参加させていただき、「限界集落」の実態を目の当たりにして日本の農業の未来に大変な危機感を感じたのですが、その後、状況は変わってきているのでしょうか。

曾根原：そうですね、この2月末参加者を募った農林水産省の企画事業「田舎で働き隊」には、募集人員の90人に対し、7倍の応募がありました。（全国70箇所で開催されている）

—それはすごいですね。先着順ですか。

曾根原：いえいえ、希望者に動機や抱負など小論文形式の応募書類を提出してもらいましたが、それを読むだけでとても時間がかかりました。でも明らかに風が吹いてきたな、と感じています。

—曾根原さんがそもそも、農村の問題に取り組まれるようになったきっかけは何だったのですか。

曾根原：私は1995年に山梨県北杜市に移って、今年で13年間農業に関わる仕事をしており、以前は、首都圏で金融関係の経営コンサルタントの仕事をしていました。ところが、バブルの絶頂期から崩壊を目の当たりにし、日本経済の限界を感じました。グローバルだといっても、これから地域産業型の時代が必ず来る、つまり第一次産業である農林水産業を基本としたビジネスで、産業構造の転換を図るべきだと思ったのです。

—山梨県北杜市を選んだのはなぜですか。ご実家があるとか？

曾根原：いえ、実は私自身は長野県飯田市の出身です（笑）。では、なぜ山梨県か。実際に農業をしてみるといっても、砂漠のようなところでいきなり仕事を始めるわけにも行きません。それには仕事の担い手を連れてこないとならない。その可能性があるのは、田舎志向の都市住民です。そしてマーケットとして対象者になる人間もいなくてはならない。まずは都市の人と農村を連携させることが大事と考

農村ボランティアの若者たち



Hisashi Sonehara

えました。交流事業を成立させやすいエリア、それは首都圏に近い、埼玉、千葉、栃木、山梨、群馬などです。そして2番目に考えなくてはならないのが、資源です。世界的に、地下資源、森林資源、水資源が非常に重要になってきたことは明らかです。調べてみると、山梨県は林野率78%。森林が豊富ということは水資源が豊富ということです。なかでも北杜市は八ヶ岳、南アルプス、瑞牆山（みずがきやま）、茅ヶ岳などに囲まれ、日照時間の長さや国蝶オオムラサキの生息数、それにミネラルウォーターの生産量がいずれも日本一という自然に恵まれた地域です。そして、一番大事なデータ、遊休農地率が非常に高い。全国平均5%に対し、山梨県は15%。悪い指標ですが、逆にこれは農地を借りやすいということです。空家があるから住む家もある。私も田舎の人間ですから、農地を一から開拓することがどんなに難しいか知っています。最初は農村の再生から入っていけばいい。山梨はエリアマーケティングの観点から最適の場所だったのです。

—そうは言っても、最初は自分自身で農業と林業を開始しました。非常に小さな規模で、我が家の食料の担保、薪ストーブの燃料を確保するという程度でした。次第に拡大していった、2000年には、農地は2haになり、森林も3haに拡大しました。私の家を訪れる都会の友人も増えて、一緒に何かやろうと提案する人もできました。そして2001年、地域共生型市民ネットワークの成立を目的としたNPO法人「えがおつなげて」を設立し、徐々に活動を広げ、2003年活動を開始した北杜市増富地区では、3年間で3haの遊休農地をボランティアの参加で開墾、農地に戻すことができました。

—今、日本の農業従事者（基幹的農業従事者数）は何人でしょうか。曾根原：たった200万人ですが、潜在需要は数百万人と言われていています。日本は食料自給率40%、木材は20%、エネルギーは4%のジリ貧国家です。しかし森林資源はフィンランドについて世界第2位。それだけの財産がむざむざ無駄になるのを黙ってみているわけにはいきません。まず人材育成が急務です。地域にやる気のある人が1人出るだけで、ものすごい効果が現われますし、逆にどんなすばらしいプランも人がいなければ、絵に描いた餅です。

2020年、世界人口は70億人を超えます。デッドラインはすぐそこまで来ています。

「世界の資源は、2020年がデッドライン。 日本の農業を支える人材育成が急務です」

曾根原久司

1961年 長野県生まれ
1985年 明治大学政治経済学部経済学科卒業
1995年 金融機関等企業経営のコンサルタントを経て、山梨県に移住
2001年 NPO法人「えがおつなげて」設立 代表理事
2002年度第1回オーライニッポン大賞ライフスタイル賞受賞
2006年度立ち上がる農山漁村優秀事例選定
2007年度毎日新聞グリーンツーリズム大賞優秀賞受賞
山梨大学客員准教授 山梨県立農業大学校講師 東京農工大学農学部非常勤講師 山梨県やまなしコミュニティビジネス推進協議会会長 内閣府地域活性化伝道師 NPO法人南アルプス山の学校理事長 NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク理事

新丸の内ビルディング「エコツェリア」で行われた、「えがおの学校」修了式で開会挨拶を述べる曾根原氏。

この日は参加42チーム中、受賞した7チームがプレゼンテーションを行った。それぞれ十分実現の可能性のあるビジネスプロジェクトと評価されていた。

<http://www.npo-egao.net/index.html>



メンテ魂

その後、
お住まいはいかがですか

第16回 大倉山の家 | 邸

所在地：横浜市港北区
用途：専用住宅
構造：RC造+S造
規模：地上3階
設計：杉浦伝宗 / アーツアンドクラフツ建築研究所
竣工：2001年3月



2001年、横浜市港北区の小高い山の上に、小規模の敷地ながら、斜面を利用し、採光と眺望が活かされた開放感あふれる住宅が完成しました。ほぼ8年が経過し、これまでのメンテナンス状況とお住まいになっての感想を奥様にお聞きしました。当時、周辺は道路に対しぎりぎりまで軒を張り出した木造住宅が多かったのですが、建替えを行った何件かの住宅が、この1邸のように道路に面した2階に広めにエントランスや駐車スペースを取っており、通り全体が明るくなった印象を受けました。

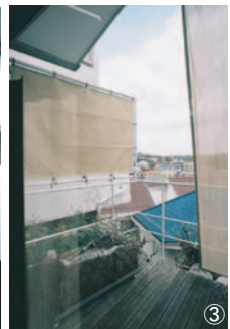
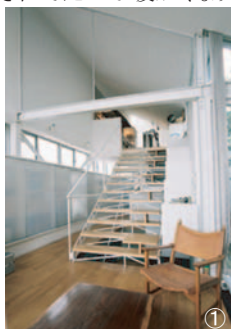
—竣工時のお住まいはいかがでしたか。

I様：以前住んでいた家はとても狭く、内部の仕切りが細かかったので、新たに家を建てる時は広い家を、と思っていました。ただその家も目の前が川で、景色だけは良かったんですね。ですからこの敷地も山の上の眺望の良さが気に入って取得しました。

—ウッドバルコニーからの景色がすばらしいですね。開口部も広いので、建物全体が明るいんですね。

I様：ただ、LDKの大きい観音開きのサッシは右側が開閉時に重かったですね。そのうちペアガラスの中に水滴が入ってしまいました。それだけでももう寒くてたまらなかったもので、作り直してもらいました。デザイン重視のせい、これまで不具合も普通の家より多いのかしらと思うことが多かったです。まず、LDKは広々としているのですが、冬は寒いんです。空間が一つつながりなので、暖房で暖められた空気が換気扇をつけるとみな3階のキッチンの方へ流れてしまいました。電気代を考え、つい最近、部屋を仕切る階段の上の梁にアクリル板を取り付けました。なるべく費用を抑え、見た目が気にならない変更にもしてもらいました。それでだいぶ暖かくなりました。

それから雨漏りが何箇所かで起きたんですが、ここは山の頂上で風が強く、その方向もいろいろ変わるので原因がわかりにくかったようです。1階の寝室は、壁がコンクリート打ち放しで、夏はひんやりしていて涼しく、よく眠れますね。エアコン不要です。当初寝室入口の坪庭に降る雨の水が地面にはねて、足元のガラス窓が汚れがちでしたが、小石を敷き詰めて解消しました。隣地は売却されて1件が2件になり、新たに建った建物が敷地ぎりぎりにもせまってきたため、目隠しに鉄パイプの枠を作り天幕を張りました。バルコニーの正面にも日よけと視線よけに天幕を張っています。3階のキッチンの三角形の開口部も当初、木があるのでカーテンなど付けなくても平気だと言われましたが、やはり道路から見えるのではないかと気になって、縦型の特注のブラインドを付けました。—今後とも、担当主任が対応させていただくとお思いますので、よろしくお願いします。



①2階のLDK。階段上の白い鉄骨の梁の上にアクリル板を張った②LDKからバルコニーを臨む。開口部からの光が部屋全体に差し込む③バルコニーに新しく設けられた、目隠しの枠④3階ダイニング。道路側に面した窓にブラインドを設ける。⑤2階エントランスに向かう廊下。キッチン下の配管の勾配が不足していたため右側の飾り棚の天井部分に漏水が起き、補修を行った。

TOPICS/INFORMATION

「桜新町プロジェクト 地鎮祭」 3月6日

外壁に非常にこだわった桜新町駅前通りに面するおしゃれな商業ビルです。

構造：S造
規模：地上5階
用途：店舗・事務所
設計：合田建築設計事務所
完成予定：2009年9月

「F邸新築工事 地鎮祭」 3月26日

千駄ヶ谷に位置する、外断熱、本格的煉瓦積みの住宅です。



構造：RC造
規模：地下1階、地上3階
用途：専用住宅
設計：ジェネラルデザイン
完成予定：2009年11月

編集後記

・煉瓦の話はいかがでしたか。お客様のイメージを形にしていくために、繰り返しコミュニケーションを行い、最後に納得のいくものを作り上げる—経験に裏打ちされた、言葉にできない技がそこにはあります。アドバイザーの木皿真司氏は趣味で能面を制作も行うということです。色彩、素材にこだわる、ゆとりある家づくりに、これからもご協力いただきたいものです。

(株)ユニホー辰カンパニー通信 Vol.109 発行日 2009年4月10日 編集人：松村典子 発行人：森村和男

東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450 E-mail:daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp